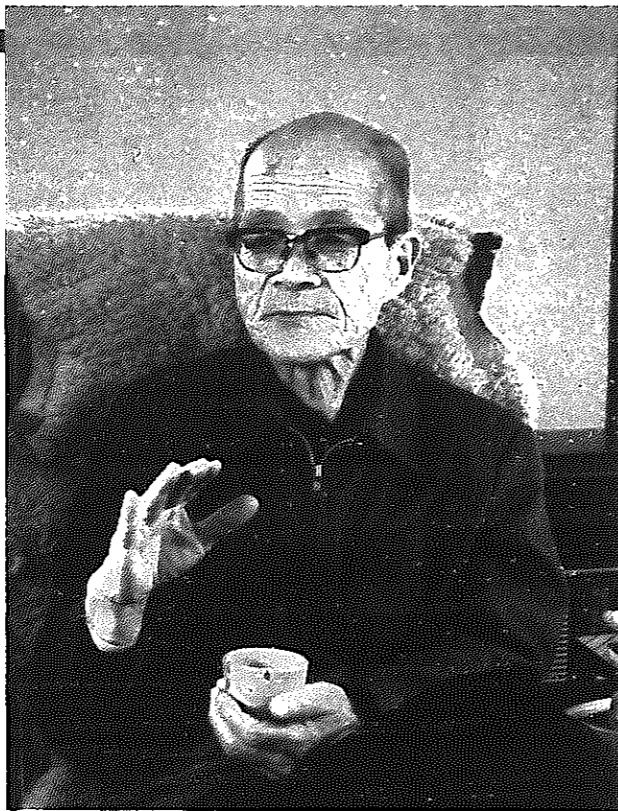
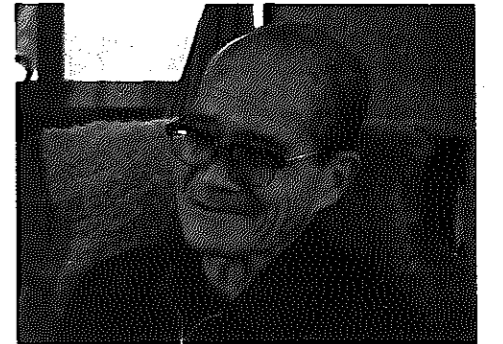


ボランティアには いろいろな領域があるんですよ

話し手 中村与吉さん(県ボランティア活動推進委員会委員長)



なかむら・よきち 1917年生まれ。新潟市在住。昭和16年に教員となる。県立あけぼの学園、新潟市明生園などを経、49年学園に勤務。現在、社会福祉法人更生慈仁会理事など役職多数。県保育専門学院の講師なども務め、親しみやすい語り口は学生から好評。平成元年勲五等瑞宝章を受章。



「ボランティア活動に興味はあるが、どうしたらいいのかわからない」「ボランティアとは何かよくわからない」という声を耳にします。そこで、長年福祉事業やボランティア活動にかかわってこられた中村与吉さんにボランティア活動についてお話を伺いました。

ボランティアの 3つの要件

―新飯田中学校では社会福祉研究普及指定校ということで、一生懸命ボランティア活動に取り組んでいます。しかし、一般的には、まだ浸透しているとはいえない状況です。そこで「ボランティアとは何か」という点からお伺いしたいと思います。

中村 ボランティアには3つの要件が必要だと思います。第一に自発性ですね。人から言われてやるのではなく、自分から進んでやるということです。第二に無償性、代償を求めないということ。三番目にその仕事の内容が、他人や社会のために役に立つ、奉仕ということ。

―自主性、無償性、他人や社会のために役に立つという3つの要件を兼ね備えたボランティアは、なかなか難しいのではという気がします。

中村 そうですね。それぞれの個人の生活から見ると、この三つを兼ね備えるのは難しいことでしょうね。中には、無償性だと困るといふ人もいます。ようし、自分のことで手一杯で、他人のことまで構ってられないという人もいます。そういうことも否定できないと思います。また、自主的、自発的に良い

ことをやろうという気持ちを持つている人は多いと思いますが、実際に実行するのは難しいことかもしれません。ですから、白根市だけがボランティア活動に携わる人が少ない、というようなことではないと思いますよ。それにボランティアを「他人のための、社会のための奉仕作業」などと言うと、とても強く響きます。でも、そういうった堅いものでなく、こんなふうに考えてみたらどうですか。

道路に大きな石が一つあった。お年寄りや子供がつかまづいてけがをしたら大変だと、自発的に石を道端に運ぶ。そういうことも一つの奉仕ですね。自発的にやるわけです。それをやったからといって、運賃がいくらだとか、報酬がいくらだとか言いませんね。石を道端に運ぶだけでも、世のため人のためになる。立派なボランティアなんですよ。ボランティアの奉仕の内容をそういうふうには理解すれば、だれにでもできることになると思いませんか。ほんの少し勇気を出せば、だれにでもボランティア活動ができるんです。

ボランティアは 身近なところから

―一般的にボランティアというと、障害者のためにお手伝い

しかし、その人にとっては、入ってもらいたくない領域もあるのではないのでしょうか。

中村 ボランティア活動には、ボランティアと相手の人との人間関係と申しましょうか、心と心の結び付きが大切だと思えます。特に訪問をして奉仕するようなとき、この点に気をつけたいですね。大切なことは、相手の身になりながら、奉仕をするということではないでしょうか。ボランティアの押し売りはいけません。ということだと思います。

人間関係を円滑にするには、必ず相手の気持ちを考えて奉仕をしなければなりません。自己満足だけではいけません。常に相手の気持ちを考えて活動すれば、ボランティアは成功するのではないのでしょうか。

無理なく 長続きするものを

―ボランティアを広く根付かせるためには、どのようにすればいいのでしょうか。

中村 ボランティアには、いろいろな領域や仕方があるというところを、社会福祉協議会や広報機関が市民に対して、ボランティア普及のPRをすることが一つ。施設ボランティアだけがボランティアではないということとを、分かっていただきたいと思います。

をするとか、社会的な施設に慰問に行くというようなことを連想してしまいます。

中村 そうですね。ボランティアというところに、社会福祉施設的なところに行く、弱い立場の人を助けるということをお考えになると思えます。社会福祉施設に行ったり、病院にお手伝いに行ったり、公園の清掃をしたりということも、もちろんボランティア活動の一つの領域として大切だと思います。ですが、施設に行つて奉仕をしないとボランティアではないという考えは、誤っていると思います。施設に出掛けなくても、身近な所に行くところから、なんです。身近なところから、他人のため、社会のために、ことをやるということが、大切なんです。

ボランティアという言葉に捕らわれずに、考えてみてください。ごみの集積所が汚れていたからきれいに掃除をするとか、道路の草を取るとか、皆さんはボランティアをしているじゃありませんか。

しかし、組織的にボランティア活動を行うということになると、人を集めて老人ホームに行くとか、公園の清掃をするとかということから始まることになりましょう。施設に行く、障害者のためになるというばかりで

です。もう一つは、ボランティアそのものをよく理解していた上で、自分の生活に無理がなく、長続きするものをするということですね。

ボランティアとは、自発性、無償性、奉仕ということを申し上げました。このうち奉仕というところを、よく考えたいと思います。仕事をするのはみんな、奉仕の精神が基本になつていなければならぬと思います。自分の仕事で自分だけでなくて、他人のためにもなるようにという気持ちを持つことが大切で、ボランティアではない仕事の中にも、奉仕の精神が生きている。こういった世界になることが大切ではないでしょうか。

あるボランティアが私にこう言うのです。「他人のためにやるようにとボランティアを始めたのですが、自分のためになつた」と。他人のために始めたボランティアが、巡り巡つて自分のためになつた、自分が人間として深まったということなのではないでしょうか。ここまでくれば最高ですよ。

―ボランティアとは、どういうことなのか、少し分かったような気がします。今日のお話を広報に掲載し、市民と一緒にボランティアについて考えていきたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。